

目標項目一覧

(1) 栄養・食生活

指標	男女等の別	基準値	データ年次	H26	H27	H28	直近値	データ年次	目標値	達成率	評価
朝食を食べる人の割合	20歳以上の男女	86.6%	25年	—	—	—	87.7%	28年	90%	32.4%	B
朝食を食べる人の割合	小中高校生の男女	88.7%	23年	—	—	—	88.6%	28年	95%	-1.58%	D
朝食を食べる人の割合	園児の男女	94.3%	25年	—	—	—	93.2%	28年	95%	-1.57%	D
朝食を食べる人の割合	幼児期の男女	92.7%	25年	92.6%	92.7%	92.2%	92.2%	29年	95%	-21.7%	D
自分の適性体重を知っている人の割合	市民	91.9%	23年	—	—	—	93.8%	28年	95%	61.3%	B
自分の適性体重を知っている人の割合	小中高校生	68.4%	23年	—	—	—	65.5%	28年	80%	-25.0%	D
肥満度により体型を分類した「肥満」の割合	小学1年生男子	4.1%	25年	5.0%	3.7%	4.6%	3.7%	29年	3.6%	80.0%	B
	小学1年生女子	3.4%	25年	3.9%	5.3%	4.2%	3.5%	29年	2.9%	-20.0%	D
肥満度により体型を分類した「肥満」の割合	小学5年生男子	9.4%	25年	8.3%	10.8%	9.6%	11.2%	29年	8.9%	-360%	D
	小学5年生女子	8.9%	25年	6.5%	6.6%	8.5%	8.9%	29年	8.4%	0%	C
肥満度により体型を分類した「肥満」の割合	中学2年生男子	10.4%	25年	9.4%	10.7%	9.4%	6.6%	29年	9.9%	760%	A
	中学2年生女子	7.6%	25年	8.7%	11.3%	9.6%	8.2%	29年	7.1%	-120%	D
週3回以上朝食の抜く人の割合	ヤング健診受診者 35～39歳	13.9%	25年	15.2%	13.7%	16.4%	18.4%	29年	10%	-115%	D
週3回食後間食する人の割合	ヤング健診受診者 35～39歳	27.1%	25年	25.5%	23.5%	26.2%	21.6%	29年	22%	107.8%	A
20歳時体重から10kg以上増加した人の割合	ヤング健診受診者 35～39歳	20.3%	25年	21.5%	19.3%	19.8%	21.9%	29年	15%	-30.2%	D
週3回以上朝食の抜く人の割合	40～64歳特定健診受診者	8.9%	25年	5.4%	5.6%	5.7%	5.7%	29年	5%	82.1%	B
週3回食後間食する人の割合	40～64歳特定健診受診者	16.0%	25年	10.5%	10.9%	11.0%	11.4%	29年	13%	153.3%	A
20歳時体重から10kg以上増加した人の割合	40～64歳特定健診受診者	35.7%	25年	34.1%	34.3%	34.1%	34.7%	29年	30%	17.5%	B
市内でヘルシーメニュー提供店と認定した飲食店		0	25年	—	2	9	5	29年	5	100%	A
市内食育推進協力店の登録数		141	H25年	143	144	146	139	29年	160	10.5%	D

今年度までの取り組み	今年度までの取り組みからみえる課題
<p>① 学童期の子どものやせ・肥満予防として「望ましい体格を知るリーフレット」について、継続して配布。学級担任への要点をまとめた簡易マニュアルを作成し配布している。 (H25年度～) また、子どもだけでなく保護者に読んでもらえるよう5ヶ国語(英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語)に翻訳したものを作成した。</p> <p>② 働き世代の生活習慣病予防として「スタイルアップ大作戦」パンフレットを作成し、ヤング健診受診者等に配布している。 (H30年度～)</p> <p>③ヘルシーメニュー協力店舗の募集を行っている。(H28年度～)</p> <p>④実施店舗数の増加について検討し、実施していない店舗での食育や健康に関する情報提供の方法を検討している。(H30年度)</p>	<p>・若い年代の朝食欠食、自分の適性体重を知っている人の割合が減少している。 ⇒未就学児、小中高等学校での朝食欠食状況を分析。 欠食改善には、妊娠期、未就園時から取り組み、生活習慣に根付かせることが重要。学童期、思春期は身体を作る大切な時期であり、標準的な体重が必要なことを理解させる取り組みが必要。</p> <p>・青年期の指標について、データの母数が300前後と少なく傾向が把握しづらい。職域などの健診結果など母数規模の大きいデータを指標にするよう検討していく。</p>

(2) 身体活動・運動

指標	男女等の別	基準値	データ年次	H26	H27	H28	直近値	データ年次	目標値	達成率	評価
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	青年期女性	38.2%	25年	40.1%	35.7%	46.1%	47.3%	29年	50.0%	77.1%	B
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	壮年期男性	43.5%	25年	44.2%	43.0%	42.6%	41.5%	29年	60.0%	-12.1%	D
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	壮年期女性	49.1%	25年	49.4%	49.0%	46.4%	47.3%	29年	65.0%	-11.3%	D
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	高齢期男性 (65～74歳)	60.9%	25年	62.8%	60.2%	59.3%	58.2%	29年	75.0%	-15.1%	D
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	高齢期女性 (65～74歳)	60.8%	25年	61.2%	60.3%	58.0%	58.9%	29年	75.0%	-13.4%	D
市民の週1回以上のスポーツ(運動)実施の割合	20歳代	25.2%	26年	—	37.6%	32.3%	32.3%	29年	40.0%	48.0%	B
市民の週1回以上のスポーツ(運動)実施の割合	30歳代	25.8%	26年	—	30.4%	27.1%	20.2%	29年	40.0%	39.4%	D
市民の週1回以上のスポーツ(運動)実施の割合	40歳代	29.2%	26年	—	29.3%	30.2%	24.7%	29年	45.0%	-28.5%	D
市民の週1回以上のスポーツ(運動)実施の割合	50歳代	33.3%	26年	—	29.8%	33.9%	26.3%	29年	50.0%	-41.9%	D
市民の週1回以上のスポーツ(運動)実施の割合	60～64歳	38.0%	26年	—	39.6%	46.3%	36.8%	29年	60.0%	-5.5%	C
基本チェックリストにおける二次予防事業対象者で運動器の機能向上対象事業該当者の割合		15.4%	25年	—	—	—	—	—	10.0%	—	E ※1

今年度までの取り組み	今年度までの取り組みからみえる課題
① 身体活動・運動の効果についての情報提供として、市役所関係機関に「階段の利用」を促すポスターを作成、掲示し運動の効果について周知している。(H28年度～) ② 転倒予防・筋力低下予防に関する知識の普及として、ロコモティブシンドロームに関する記事の掲載を毎月15日号広報に掲載している。(H28年度～) ③ 保健連絡員が開催する健康展等でウォーキングマップを配布、ウォーキング大会を開催している。また、保健連絡員が作成した各地区のウォーキングコースについての見直しを行った。(H29年度) ④ 小牧市ウォーキングアプリ「alko」を開発し、各種チャレンジを配信、歩くことからの健康づくりを促している。(H28年度～) ⑤ 乳幼児及び保護者が安全に遊べる場に関する情報を示した配布物を作成している。(H30年度～)	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の指標について目標値に対して遠ざかっている。 ⇒より多くの人に身体活動の大切さに意識を持ってもらえるよう検討が必要。 ・壮年期・高齢期の指標について目標値から遠ざかっている。 ⇒正しい知識の情報提供 運動をしていない人への意識向上を図ることができるよう、具体的な取り組みについて検討が必要。 ・基本チェックリストに替わる指標についての検討が必要。

※1 評価「E」については、「基本チェックリスト」の対象者や内容が変更となったため、評価できず。

(3) 休養・こころの健康

指標	男女等の別	基準値	データ年次	H26	H27	H28	直近値	データ年次	目標値	達成率	評価
相談相手のいる保護者の割合	乳幼児の保護者	94.8%	25年	96.8%	96.9%	96.7%	96.0%	29年	98.0%	37.5%	B
ゆったりとした気分で子どもと接することができる保護者の割合	乳幼児の保護者	79.6%	25年	80.9%	80.9%	80.2%	79.6%	29年	85.0%	-25.6%	D
子どものテレビやDVDの1日の視聴時間が2時間未満の者の割合	1歳6か月児、3歳児	45.9%	25年	47.4%	48.1%	49.9%	50.9%	29年	60.0%	35.5%	B
午後10時以降に就寝する子どもの割合	1歳6か月児、3歳児	27.5%	25年	28.2%	26.2%	26.7%	23.8%	29年	20.0%	49.3%	B
自分自身を好きといえる子どもの割合	市民意識調査	70.7%	25年	72.3%	72.8%	72.9%	73.4%	29年	80.0%	29.0%	B
自分自身を好きといえる市民の割合	市民意識調査	76.7%	25年	76.7%	78.1%	75.9%	76.8%	29年	80.0%	3.0%	C
睡眠不足の者の割合	特定健診受診者	21.5%	25年	21.9%	22.6%	22.2%	22.3%	29年	15.0%	-12.3%	D
生きがいを持って生活している高齢者の割合	65歳以上の市民	81.8%	25年	76.7%	78.7%	78.5%	78.5%	29年	90.0%	-40.2%	D
うつ・自殺対策ゲートキーパー養成講座参加者数	市民	435人	25年	600人	821人	1091人	1423人	29年	1,500人	92.8%	B

今年度までの取り組み	今年度までの取り組みからみえる課題
<p>① うつ・自殺対策として「ゲートキーパー養成講座」市民・保健連絡員・行政職員対象に実施した。(H24年度～) (27年度4回、28年度4回、29年度6回)</p> <p>② うつ・自殺対策に関する関係者間のネットワーク作りとして「相談窓口ネットワーク連絡会」を開催。24機関の関係機関が参加し相談機関の連携の大切さを再確認した。(平成27年度から年1回実施)</p> <p>③ 「こころの相談窓口パンフレット」を改正。悩みを抱える者、またその家族等が手にした時に相談先が分かるような内容に校正し作成した。 (平成28年度に改正、H30年度)</p> <p>④ 「産後うつ」を母親のみにならず、パートナー・地域の方に周知啓発するために、産後うつ普及啓発ポスターを作成している。(H30年度)</p>	<p>・睡眠不足の者の割合、高齢者の生きがいに関する指標について、目標値から遠ざかっている。 ⇒睡眠、生きがいづくりについて取り組みが未着手なため、今後検討し、取り組んでいく。</p>

(4) たばこ・アルコール部会

指標	男女等の別	基準値	データ年次	26年	27年	28年	直近値	データ年次	目標値	達成率	評価
妊婦で喫煙する人の割合	親子健康手帳交付の妊婦	2.7%	25年	3.0%	2.9%	2.6%	2.0%	29年	0.0%	25.9%	B
喫煙する人の割合	国保データベース男性	24.8%	26年	—	24.5%	24.0%	24.7%	29年	20.0%	-2.2%	C
喫煙する人の割合	国保データベース女性	5.5%	26年	—	5.7%	5.4%	5.3%	29年	3.0%	8%	C
妊婦で飲酒する人の割合	親子健康手帳交付の妊婦	0.6%	25年	0.8%	0.9%	1.4%	0.6%	29年	0%	0%	C
毎日アルコールを飲む人の割合	国保データベース男性	46.4%	26年	—	44.8%	44.8%	42.5%	29年	40.0%	60.9%	B
毎日アルコールを飲む人の割合	国保データベース女性	8.7%	26年	—	9.2%	9.1%	9.5%	29年	5.0%	21.6%	D

今年度までの取り組み	今年度までの取り組みからみえる課題
<p>① 禁煙希望者へのサポート用リーフレットを作成し、医療機関などに平成28年度から設置。禁煙に関する記事をホームページにも掲載し周知を図っている。(H28年度～) また、女性の喫煙は、精神的依存度が高いことに着目し、周りのサポートが必要なことや禁煙治療についてわかりやすく啓発できるリーフレット作成を検討している。</p> <p>② 妊婦の喫煙防止のためのリーフレットも作成し、子育て世代包括支援センターでの親子健康手帳交付開始に合わせて利用開始。喫煙する妊婦、また家族に喫煙者がいる方への相談時にも活用している。 (平成30年度～)。</p> <p>③ 学童期への受動喫煙対策について出前講座などの実施を検討している。(H30年度～)</p>	<p>・アルコールに関する指標について、目標値から遠ざかっている。 ⇒飲酒に関する取り組みが必要なため、検討していく。</p> <p>・国や県の指標にあるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の取り組みが何もない。⇒COPDについても、推進することが必要。</p> <p>・受動喫煙に関する取り組みも必要で、指標についても検討していく。</p>

(5) 歯の健康

指標	男女等の別	基準値	データ年次	H26	H27	H28	直近値	データ年次	目標値	達成率	評価
保護者が仕上げみがきを実施している1歳6か月児の割合	1歳6か月児	70.5%	25年	94.8%	95.0%	95.7%	94.6%	29年	75%	535%	A
3歳児の保護者で定期的に歯科健診を受けている者の割合	3歳児	—	25年	44.2%	44.7%	48.5%	50.8%	29年	55%	—	E ※2
3歳児のう蝕のない者の割合	3歳児	87.4%	25年	91.0%	88.3%	88.9%	91.0%	29年	95%	47.4%	B
小学3年生で第一大臼歯が健全な者の割合	小学3年生	93.6%	25年	94.0%	94.4%	94.8%	95.6%	29年	95%	142.9%	A
中学1年生(12歳児)でう蝕のない者の割合	中学1年生	72.3%	25年	70.8%	75.3%	79.6%	78.0%	29年	80%	74.0%	B
中学3年生(14歳児)の歯肉の炎症所見のない者の割合	中学3年生	93.5%	25年	94.7%	95.5%	94.9%	94.7%	29年	95%	80.0%	B
40歳で歯周炎所見のない者の割合	40歳男女	53.7%	25年	61.8%	60.3%	29.9%	39.5%	29年	60%	—	E ※3
60歳で歯周炎所見のない者の割合	60歳男女	52.7%	25年	55.4%	49.3%	27.0%	32.4%	29年	55%	—	E ※3
60歳で定期的に歯科健診を受診している者の割合	60歳男女	47.3%	25年	45.7%	56.6%	52.6%	45.9%	29年	50%	-51.9%	D
80歳(80~84歳)で自分の歯が20本以上ある人の割合	80~84歳男女	31.6%	25年	—	—	—	29.6%	28年	35%	-58.8%	D
80歳(80~84歳)で歯や口の中の状態について「特に悪いところはない」と感じている者の割合	80~84歳男女	42.2%	25年	—	—	—	35.7%	28年	50%	-83.3%	D

今年度までの取り組み	今年度までの取り組みからみえる課題
<p>① 乳幼児期への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児対象歯科疾患対策モデル事業(大学連携事業)(H25年度~) 保育士対象研修会の開催(H20年度~) 保育士による啓発活動(H29年度~) 園児及び高齢者通所施設対象啓発事業(H25年度~) フッ化物洗口の実施(市内公立保育園20園及び公立幼稚園1園)(H25年度~) <p>② 学童期・思春期への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年生対象健康教育事業(H19年度~) 学校関係者対象研修会の開催(H23年度~) フッ化物洗口の実施(市内2小学校)(H13年度~) 啓発チラシの配布(H26年度~) 学童期啓発事業の実施(H29年度~) <p>③ 青年期・壮年期への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 商工会議所健康診断時の啓発活動(H24年度~) 糖尿病と歯周病の関連に着目した歯周疾患対策の推進(H23年度~) 特定健診及び人間ドック対象者への啓発活動(H28年度~) 動物病院連携啓発事業(H27年度~) 職員研修の開催(H30年度) <p>④ 壮年期・高齢期への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護予防リーダー対象啓発事業(H29年度~) 介護スタッフ対象研修会の開催(H27~29年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・壮年期・高齢期の歯周炎に関する指標について40歳、60歳に関する指標が目標値から遠ざかっている。 ⇒WHOの意識の診断基準の変更があり、基準値からの評価が難しい状況だが、中間評価で新たな基準値を設定すべき。 ・歯科に関する意識の向上を図ることができるよう、具体的なアプローチ法について検討が必要。

※2 評価「E」については、基準値がないため評価できず。

※3 評価「E」については、WHOの診断基準が基準年時と異なるため評価できず。

●働く世代の健診・検診受診率の向上

指標	男女等の別	基準値	データ年次	H26	H27	H28	直近値	データ年次	目標値	達成率	評価
胃がん検診 40～59 歳の受診率	40～59 歳男女	8.7%	25 年	11.7%	13.9%	12.4%	11.7%	29 年	13.7%	60.0%	B
子宮がん検診 20～59 歳の受診率	20～59 歳女性	13.3%	25 年	6.4%	8.6%	7.0%	12.7%	29 年	18.4%	-14%	D
乳がん検診 30～59 歳の受診率	30～59 歳女性	17.1%	25 年	11.4%	15.0%	15.5%	18.6%	29 年	22.1%	30.0%	B
肺がん検診 40～59 歳の受診率	40～59 歳男女	11.2%	25 年	14.3%	16.1%	15.1%	14.9%	29 年	16.2%	74.0%	B
大腸がん検診 40～59 歳の受診率	40～59 歳男女	22.8%	25 年	25.3%	30.0%	26.6%	24.3%	29 年	27.7%	32.0%	B
いきいき世代個別歯科健診 (40・50・60 歳) の受診率	40・50・60 歳	8.0%	25 年	7.6%	8.1%	8.0%	8.9%	29 年	13%	18.0%	B

今年度までの取り組み	今年度までの取り組みから今後の課題
<p>①胃がん検診に内視鏡検診を導入した。(平成 28 年度～)</p> <p>②乳がん検診の個別検診を実施した。(平成 29 年度～)</p> <p>③5 大がん要精検者に受診勧奨の再通知を実施した。(H28 年度～)</p> <p>④乳がん(超音波)検診とヤング健診のセットの受付を実施。(H30 年度～)</p> <p>⑤協会けんぽ特定健診と、胃・大腸がん集団検診を同日に開催。通知はがきに他のがん検診も掲載し、周知を図った。(H30 年度～)</p> <p>⑥NPO 法人と協働で、がん検診の意識啓発、受診勧奨をチラシ等による対面配布を実施した。(平成 30 年度～)</p> <p>⑦乳がん無料クーポン未受診者へ受診勧奨通知を実施する。(H30 年度～)</p> <p>⑧市民向け糖尿病予防講座を開催 (H30 年度～)</p>	<p>・女性特有のがん検診で、子宮がん検診の受診率について、目標値から遠ざかっている。</p> <p>⇒後発年齢と年代別受診率を分析し、受診率を上げたい年代にターゲットを絞っての取り組みが必要。</p> <p>・糖尿病重症化予防の取り組みの指標がない。</p> <p>⇒重症化の予防に関する指標の設定。</p>